

産業経済委員会活動 7月6日～8日

研修テーマ：農業(果樹)観光・担い手農業について

山梨県南アルプス市(平成15年4月1日、八田村・白根町・芦安村・若草町・櫛形町・甲西町と合併)

《研修内容：農業(果樹)観光について》

さくらんぼは、粒が小さくて収穫が大変であり、高齢化が進む中、脚立による作業が大変であると言うことで、旧白根町の町長が、昭和62年頃収穫の軽減と観光による収入増を見込んでさくらんぼ狩りを始めました。この地域は、中央自動車道路が通っているため、東京方面から非常に近いと言うことを利点として、「東京から90分でさくらんぼ狩りができます」と言うキャッチフレーズが受けて、観光客が多くなりました。また、全ての農園に屋根がかかっているため雨が降ってもさくらんぼ狩りが出来ることもひとつの要因でありました。近年はインターネットの普及、交通網の整備、入場料の問題で観光客が減少しているようです。本市の観光農業も背景的には、同様なものがあるため、今後の施策検討が必要であると痛感いたしました。



▲南アルプス市役所前



▲掛川市役所大東庁舎

静岡県掛川市(平成17年4月1日、掛川市・大東町・大須賀町と合併)

《研修内容：担い手農業について》

旧大東町の旧大浜地区は、最も農業の近代化が図られた地域ではありますが、担い手不足、米価の低迷等、農業を取り巻く環境が極めて悪くなったことから、平成8年協業集団(水稻団地)の組織編成を検討する千浜水稻団地研究会を立ち上げました。これをJA・農林事務所(県)・行政が後押し、平成10年3月2日農事組合法人大東農産が設立されました。平成16年度水稻作付け面積は90.27ha、転作作物として麦と牧草を作付し、牧草の収穫は、畜産農家に依頼しています。平成16年産の米販売高は約1億4百万円であり、そのうち約67%は地権者に対し飯用米として販売しています。残りはJAへ出荷しています。

建設委員会活動 7月4日～6日

研修テーマ：駅舎並び周辺開発整備について

宮城県名取市議会

《研修内容：駅舎並び駅周辺整備事業について》

平成15年7月5日、新しい名取駅舎と東西自由通路がオープンしました。これは、昭和53年に建てられた旧名取駅舎を約20年を経た現在、ライフスタイルや社会情勢の変化、自由通路利用者の増加、バリアフリー対策、東西駅前広場の整備などの必要性から、自由通路と併せ全面的に改修したものです。同年9月1日には、施設内に併設されたウイングプラザ(名取駅コミュニティプラザ)が開館しました。「駅」と言う交通の拠点、人、物、情報が集まる、ふれあいの拠点に生まれ変わりました。

本市でも、神立駅周辺整備の問題があり、今回の研修内容を今後の計画に活かして行きたいと思います。



▲平成15年にオープンした新名取駅



▲東松山市役所前

埼玉県東松山市議会

《研修内容：駅前広場整備計画》

東松山市ではオープンハウスや地元説明会の実施により、幅広く市民のご意見・ご要望を伺ってきたそうです。その中で、「若い方の意見を積極的に聞いてみてはどうか」という意見から、3つのプランの中で、アンケートを実施。その結果を基に内容を十分検討して詳細な計画づくりを進めてきました。一般市民からも「東口まちづくり研究会」という団体が発足して、平成2年から3年間、地区ごとの活動を行ってきました。多い時には100人以上の市民が参加して活動・研修が行われました。現在、まちづくり研究会は、東口地区、西口地区で約35人が集まり、市から補助を受けて、年に4～5回の活動・研修を行なっています。